

カナダ日本語教育合同研修会 各州・各団体の活動発表と意見交換会

日程 : 2015年3月7日(土)~3月8日(日)
場所 : バンクーバー日本語学校
代表者: 江本昌子(児童6)

○研修会の目的

カナダ国内における日本語学習者の学習環境向上を目的とする。各州・各団体の学習環境の取り組みを共有し、カナダ全土の日本語教育の底上げを目指す。また、現場の日本語教師の視点に立ち、日本語学習者に対する学習の動機づけについての研究を深め、日本語教師のレベルの向上を目指す。

カナダ国内における日本語教育環境の取り組みでは、各州団体に活動発表と、その他日本語教育機関の情報提供の場を設け、それぞれの地域で教育環境を整えていくことを目指す。
さらに、各州団体、その他日本語教育機関が協力し合いながら、日本語教育の質の向上に取り組める関係づくりを考える。

○研修会のテーマ

- ア、カナダ国内における日本語教育環境向上の取り組み
- イ、日本語学習者への学習に対する動機づけ

○日程詳細

3月7日(土)

10:00 バンクーバー空港迎え ※9:20 前泊の代表者迎え
11:30 各州代表者 JALTA 加盟校学校見学: グラッドストーン日本語学園
13:00 会談・昼食
13:30 各州代表者 JALTA 加盟校学校見学: バンクーバー日本語学校
15:30 各代表者ホテルチェックイン
17:40 各州代表者迎え
18:00 会食・研修会事前打合せ

3月8日(日)

9:20 各州代表者迎え
9:30 会場到着・準備: バンクーバー日本語学校
10:00 研修会開始
野呂博子先生 ビクトリア大学
講演・ワークショップ「日本語学習者の動機づけ」
13:00 会談・昼食 ※各セクションに分かれての交流
13:45 各州代表者による各州団体の活動発表・情報交換
・BC: JALTA
・ビクトリア: ビクトリア日本語学校
・アルバータ: カルガリー日本語学校
・オンタリオ: トロント国語教室
・ケベック: モントリオール日本語センター
・UBC (CAJLE 広報担当の方)
各代表者 全6名 ※パネルディスカッション形式
15:00 終了・各州代表者送り

○3月7日 学校見学

1、グラッドストーン日本語学園

- ・各教室の授業・職員室を見学
- ・生徒数は約400名
- ・活動時間:平日の夕方と土曜日(時間帯で学年・クラスが入れ替わる)
- ・漢字検定の活用
- ・国語教科書の使用、教材は教師の手作りも多い
- ・各部屋にテレビがあり、インターネット接続、10分以内と時間を決めてテレビ観賞
- ・図書の本が充実、兄弟で待っている間に読むまんがや宿題をするなどの自習机がある
- ・上級者用の使用教材の紹介
- ・創立40周年記念の文集と、ひかり文集をいただいた

2、バンクーバー日本語学校

- ・食堂で保護者ボランティアの方々が作ってくださった昼食をいただいた
- ・「読み方発表会」の鑑賞
- ・各教室・図書館・職員室を見学(残念ながら授業はやっていなかった)
- ・キンダー・プレスクールの教室を見学、中庭あり
- ・弓道・剣道・空手などのクラブ活動がある

○3月8日 研修会内容

1、JALTA 代表 開会挨拶

2、JICA 代表挨拶

3、講演・ワークショップ「日本語学習者の動機づけ」 野呂博子先生 ビクトリア大学

◎5つのグループに分かれ、各グループで議題を話し合い、出た意見をグループごとに、または個人で発表

- ・議題:日本語学習者の多様化、どういう学習者がいるか?
- ・議題:日本語学習の目的:どんな日本語を勉強しているか? どこでどうやって? どうして?
- ・教育上の問題点:教材不足・学習者不熱心・レベルの問題など
- ・議題:先生として学習者に期待すること、学習者が期待すること、この2つにギャップはあるか、ギャップをうめるためにはどうすればいいか?
- ・内発的動機・外発的動機について
例1:自分が好きなことだから頑張る(自ら学ぶ・やる意欲)(内)
例2:テストでいい点数を取ったらご褒美がもらえるから頑張る(外)
- ・「楽しい」と「楽」は同じか
- ・心理学者ヴィゴツキーは、子供が大人や仲間同士での協同によって、自分一人では到達できないレベルに「背のび」できると主張した。では、どのように「背のび」できるのか?
- ・「背のび」の仕組みは、「足場かけ」という概念を使って明らかにした(足場は建築物が完成したら不必要になる)

- ・ある程度の到達点まで達したら、自分で学習ができるように適切な支援
- ・学習のゴールを可視化
例:100メートルを走るとき、何秒以内にするにはどうすればいいか?
- ・どのようにゴールに到達できるかを、仲間や教師と協同で考える
- ・動機付け環境の創出 例:教室内で助け合える(学び合う関係)
- ・動機付けの維持と保護 教師の役割(学習者に適切な教材選びなど)
- ・肯定的な自己評価の促進 例:ほめてあげる、競争心など
- ・議題:社会とつながるために
どういう活動をしているか、またはどういう活動が考えられるか?
一人り化(自分にとっての関心・興味をじくに行動する)
一身体活動
一ホリスティックな活動
例:学習語を使って仕事やボランティアなど

4、昼食:幼稚科・小学科・中高等科・基礎科・アダルト科に分かれて自由に会談

5、各州代表者発表 自己紹介ならびに団体紹介

- ・各団体構成について
- ・継承語学校について(日本語学校数・生徒数・生徒のレベル・使用教科書など)

6、各州代表者発表 各州・団体活動内容と課題

- ・教師育成の取り組み
- ・日本語教育振興の取り組み
- ・各日本語教育機関との関わり

7、質疑応答

8、JALTA 代表 閉会の挨拶

○所感

学校見学は諸事情により時間短縮、1校目は少し授業を見学させていただきましたが、2校目は「読み方発表会」以外、授業をやっていなかったのも、各教室を見せていただくかたちになりました。どちらの学校にも職員室があり、たくさんのテキストや先生方の手作り教材などを保管、会議以外でも先生方同士で話し合う時間が自然とでき、また引き継ぎにも大いに役立ちます。そのような職員室のメリットを最大限に活用されている印象を受けました。

講演して下さった先生、BC 各学校・他州の校長先生方からも、いろいろと参考になるお話を聞かせていただきました。生徒数が増加し、センターと同じような課題をかかえている団体もあり、そういった情報を共有させていただいたのは、個人的に大変勉強になりました。

ただ、学習面について、例えば「助詞の使い方が難しい」「熟語になると大変だ」などの意見が出たのですが、では効果的な教え方は?、という話までは時間もなくてできませんでした。もう少し意見交換の時間があれば、さらに有意義な研修会になっていたのではないかと思います。

それから、他州は校長先生方が来ていらっしゃいました。このようなケベック州の代表として、発表を準備しなくてはならない研修会の場合は、誰が参加させていただくかということ、センターは一度検討した方がいいのではないかと思います。

○写真

・グラッドストーン日本語学園 授業のようす、建物前の庭、建物の外観



・バンクーバー日本語学校 「読み方発表会」のようす、教室、図書室、建物入り口



